

令和7年3月22日

保護者各位
生徒の皆さんへ

日本大学高等学校
校長 中園 健二

令和6年度自己点検・評価の実施結果について

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動及び学校運営にご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、本校において、毎年度、教育活動等の学校運営の状況について、自らで点検・評価を行い、魅力ある学校づくりのため、改善・改革に取り組むことを目的に自己点検・評価を実施しています。自己点検・評価では、「組織的な自己点検・評価」、「教員個人による自己点検・評価」及び「生徒による授業評価」を実施しています。

「生徒による授業評価アンケート」については、全校生徒の協力を得て実施しており、令和6年度は令和6年10月に実施いたしました。このアンケートは、「授業改善のための問題発見の機会」、「教員が自らの努力の成果を確認する機会」を設けることにより、生徒の視点や理解に合わせた授業となるよう、更なる改善を図ることを目的としています。

また、自由記述形式の「学習活動及び学校生活全般についての意見や要望」の欄を設け、生徒からの具体的な意見や要望にも対応できるよう構成されております。

このたび、「生徒による授業評価アンケート」結果を含む令和6年度自己点検・評価結果について、次のとおり取りまとめましたので、生徒の皆さん及び保護者の皆様にお知らせいたします。本校においては、この結果を基により一層の教育力向上を図ってまいります。

今後ともご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

1 自己点検・評価概要

本校では教育スローガン“Aiming high!”並びにサブスローガン“SHINKA!”に基づき、全ての教職員、生徒及び保護者、さらには、受験生とその保護者等に至るまで、機会あるごとにあらゆる手段を通じて目指す生徒像を明確に示し、その浸透に努めています。

令和2年度末に策定した新たな本校の中長期計画となる「日本大学高等学校・中学校基本計画（令和3年度～令和13年度）」を組織的かつ体系的に推進し、絶えず検証しながら具体的な施策につなげていくものとする。“Road to 100th”というキャッチフレーズの下、本校が目指す方向性について広く学内外に周知することが、着実な実行に向けた公約という認識で推進している。令和6年度が同計画の策定から4年目に当たることから、各項目についてリフレクションして、継続して検討課題を洗い出し、精査した結果内容を全教職員で共有し共通理解に努めています。

「日本大学高等学校・中学校創設100周年記念行事プロジェクト」については、本校創設100周年に向けたマイルストーンを設定し、計画的かつ具体的に進めることができるよう努めています。特に、新たなキャンパスの構想に関しては、より具体

的な検討を進めていく重要な年度として位置付け、その過程においては、“生徒ファースト”であることを常に念頭に置き、生徒が主体的に学び体験することのできる未来型の施設設備を構想できるように取り組んでいます。

2 「生徒による授業評価アンケート」

(1) 令和6年度結果

① 生徒自身に係わる質問

〈A〉学習

①【主体的な学び】「自ら積極的に授業に参加している」に関しては、「あてはまる」(以下A)、「大体あてはまる」(以下B)と回答した生徒が84.4%で昨年度に比べ2.6%減少しておりますが概ね良好な評価となっています。多くの生徒は真面目に授業に取り組んでいる様子が見受けられます。

②【主体的な学び】「予習など必要な準備をして授業に臨んでいる」、新たな項目③【主体的な学び】「授業の復習、試験の振り返り等を行い、次につなげる学習をしている」に関しては、「あまりあてはまらない」(以下C)又は「あてはまらない」(以下D)と回答した生徒が②では47.0%で昨年度に比べ7.6%増加しており、③でもC又はDと回答した生徒が32.6%と多く、家庭での学習習慣が定着されていない生徒が見受けられます。授業での理解度を高め学力の向上を図るためにも、あらかじめ授業の準備をして臨み、復習や試験についての振り返りを行うことは重要です。

新たな項目④【対話的な学び】「新たな考え方を発見できるように、積極的に先生と対話をしたり、友達と意見交換や議論をしたりしている」に関しては、C又はDと回答した生徒が34.7%となっています。先生との対話や生徒同士の協働を通じて自らの思考を広めることも学習を進めるうえで重要です。

⑤【深い学び】「授業の目標や計画を十分に理解している」、新たな項目⑥【深い学び】「様々な事柄に対して課題を見だし、課題の追究や解決に取り組んでいる」に関しては、⑤ではA又はBと回答した生徒が77.2%で昨年度に比べ1.4%減少、⑥ではA又はBと回答した生徒が70.0%ですが、概ね良好な評価となっています。

〈B〉生活・課外

⑦【学校生活】「校則やマナーを守って生活している」に関しては、96.0%、

⑧【学校生活】「学業と部活動が両立できている」に関しては、80.8%、

⑨【コミュニケーション】「友人関係がうまくいっている」に関しては、95.0%、

⑩【コミュニケーション】「学校生活が充実している」に関しては、91.6%

の生徒がA又はBと回答し、全体的に充実した学校生活を送れているようです。

しかしながら、悩みを抱えている生徒も少なからずいるようです。悩みや困ったことがある場合に教職員や友人に相談しやすい環境の構築に一層努めてまいります。

② 授業に対する評価

〈A〉プレゼン力

今年度は、①【説明】「授業の説明はわかりやすい」(85.8%)、②【話し方】「話し方は明瞭で聞き取りやすい」(88.7%)、新たな項目③【進度・内容】「シラバスの内容に沿って授業が行われている」(94.7%)の3つの設問に関して、A又はBと回答した生徒が全て85%以上を占めており、どれも極めて良好な評価となっています。

この結果に満足することなく、定期的に教科毎で研究授業を実施するなど研鑽の機会を増やし、より充実した授業を展開できるよう努めてまいります。

〈B〉コミュニケーション

④【関係】「質問への対応がわかりやすい」(89.2%)、⑤【熱意】「授業に対する熱意が感じられる」(91.4%)の2つの設問は、生徒と教員間の円滑な交流と相互の信頼関係が構築されているかを図る指針となるものです。それぞれA又はBと回答した生徒が90%前後を占めており、どちらも昨年度に引き続き良好な評価となっています。今後も熱意をもって理解しやすい授業を展開できるよう、更なる教育力の向上に努めてまいります。

〈C〉学習指導

⑥【板書・資料】「板書や資料は見やすく工夫されている」に関しては、A又はBと回答した生徒が88.7%、⑦【興味・関心】「興味・関心が持てる授業が行われている」に関しては、A又はBと回答した生徒が84.3%、⑧【対話的な学び】「生徒同士での協働の機会があり、考えを広げ深めることができている」に関しては、A又はBと回答した生徒が79.1%、⑨【効果】「この授業を受けて学力や技能の向上を実感している」に関しては、A又はBと回答した生徒が82.9%、⑩【深い学び】「知識を相互に関連付けてより深く理解できる機会がある」に関しても、A又はBと回答した生徒が84.8%で、いずれにおいても良好な評価となっています。

生徒たちの「学んだことを人生や社会に生かそうとする力」、「未知の状況にも対応できる力」、「実際の社会や生活で生きて働く力」を育んでいけるよう、これからも主体的・対話的で深い学びの視点に立ちレベルの高い授業の展開に努めてまいります。

3 学習活動及び学校生活全般についての意見や要望

アンケートの自由記述欄には、約21.7%の生徒が意見や要望等を記載していただきました。主な記載内容は、次のとおりです。

- ・食堂を再度営業してほしい。
- ・自習スペースの利用時間や学習環境をもっと充実させてほしい。
- ・購買と自動販売機の販売価格をもう少し下げて欲しい。
- ・学校行事（校外研修、球技大会など）をもっと増やしてほしい。
- ・気候や体調に合わせ冬服と夏服の移行期間、コートやマフラーの着用期間を広げてほしい。
- ・夏服の着用期間に女子の短い靴下を採用してほしい。

これらの記述内容についても検討し、生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばす教育を推進するため、一層の改善を進めてまいります。

令和7年度におきましても、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以 上